第３９回宮前地区青少年作品展『書道の部』講評

作品展『書道の部』には、たくさん作品が出品されていることがすばらしいです。どの作品からも、真剣に文字と向き合って練習したことが伝わってきます。

審査にあたっては、小学校・中学校の書写の学習で大切にしていることをポイントにしました。どの作品にも良さがあり、賞を選ぶのに悩みました。

まずは、基本点画の筆づかいが身についているかを見ました。基本点画というのは、始筆、終筆「とめ」「はね」「払い」、送筆「曲がり」「折れ」「そり」のことをいいます。ひらがなは、穂先のつながりを意識して、やわらかく筆を運ぶことがポイントになります。

次に、文字の組み立てを見ました。３・４年生の課題の「花いっぱい」では、「花」のくさかんむりと下の部分、5・6年生の課題「夢を語る」では、「夢」のくさかんむりと下の部分、「語」のごんべんとつくりなどのことです。高学年になると、２つの部分や３つの部分をもつ漢字が出てきます。部分の組み立てを身につけると字形が整ってきます。中学生の課題「力強い前進」でも、左右、上下の組み立てがありました。「進」は、しんにょうとふるとりの構成が難しいです。

さらに、紙の大きさに合わせて文字を配置しているか、文字の中心と行の中心が一致しているか、漢字は大きく、ひらがなは小さく書いているかも見ました。

大きな用紙に文字を書く時には、紙に合った筆を用いることが大切です。学校では大きくて太い筆は使わないので、筆に慣れるのも大変なことだと思います。

このように、毛筆には身につける知識と技能があります。それらを身につけながら、課題の言葉を繰り返し書いて、作品として仕上げていくことになります。

「毛筆は線が命」と言われています。力強い線、さわやかな線、やさしさを感じる線は、練習を重ねることで身についていきます。形を覚えるまで練習し、さらに練習すると、自分らしい線の文字が書けるようになります。何度も何度も書くことが大事です。そのうちに、筆で書くことが好きになると思います。

筆で言葉を書く時には、言葉の意味を考えたり、言葉からさまざまなことを想像したりすると、作品に魅力が出てきます。ぜひ、これからも毛筆の作品作りを続けてください。

私達は日常パソコンの文字を見ることが多いですが、筆文字は太いところと細いところがあったり、「払い」や「はね」があったりして、書いた人の息づかいが聞こえてくるようです。そこが筆文字の魅力的なところだと思います。基本的な筆づかいを何度も練習して、お手本をよく見て書くことで、字形が頭に入ります。そして「こんなふうに書きたい」というめあてをもって書くことで、お手本の言葉が書いた人の言葉になって、見る人の心を打ちます。

小学校では、まず筆づかいを学びます。始筆を練習し、基本点画の終筆「とめ」「はね」「払い」、送筆の「曲がり」「折れ」「そり」を何度も練習すると、日常のいろいろな字で生かすことができます。筆文字で大きく書くことで、硬筆で書くときに自然と美しく書くことができるようになります。学校では、一人一台パソコンが配付されていますが、自分で紙に文字を書くことは大切にしていきたいです。小学校低学年から筆文字に取り組むことで、文字意識が高まり日常に生きてくると思います。宮前地区青少年作品展には、低学年の作品も多く出品されていて、とても嬉しく感じました。

紙の大きさにぴったり収めるには、配置や配列も大切になります。文字の第１画目の始筆の位置を必ず確かめて書いてください。上下の余白も大切です。課題文字はどれも漢字とひらがな両方ありました。中心に気を付けて、漢字は大きくひらがなは少し小さめに書くとバランスが良くなります。また速く書くところ、ゆっくり書くところを考えてかくと、文字の太さ細さも出てきて、作品として勢いやまとまりが生まれます。

筆で書くのは、言葉です。言葉には、意味があります。課題文字の言葉の意味を考え、その子らしく書いている作品に特に魅力を感じました。是非これからも筆文字に取り組み、世界に一つだけの作品づくりに取り組んでほしいと思います。

審査員　川崎市立虹ヶ丘小学校　井上　恵子